

日本英語教育史学会 会報

320

2024 年 4 月 9 日

HiSELT *Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan*

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人 日本英語教育史学会 (代表: 田邊祐司)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562
県立広島大学 庄原キャンパス 河村和也研究室
tel: 0824-74-1727 fax: 0824-74-0191
e-mail: membership@hiset.jp会費納入口座 (名義人: 日本英語教育史学会)
ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873
ゆうちょ銀行〇一九店【当座口座】0132873学会公式ウェブサイト www.hiset.jp

第297回研究例会報告

2024 (令和 6) 年 3 月 16 日 (土), 第 297 回研究例会が Zoom を用いたオンラインの形態により開催されました。参加者は 19 名でした。

例会では 2 つの研究発表が行われました。最初は, 惟任泰裕氏 (大阪成蹊大学) が「神田乃武の英語教授観の再検討: 『ナチュラル・メソッド』との関係を中心に」というタイトルでお話しをされました。次に, 山田昌宏氏 (本学会会員) が「小川芳男のラジオ講座『基礎英語』」というタイトルで発表が行われました。司会は前半が河村和也氏 (県立広島大学), 後半は拝田清氏 (和洋女子大学) が務めました。以下に参加者の感想を掲載しますので, ご参照ください (①は惟任氏, ②は山田氏の発表への感想, ③は会全体に対する感想です)。

<発表 1 の感想>

◆神田乃武にかかる通説を再検討するという切込みに大いなる関心を覚えました。神田の場合にはまとまった形での英語教授法書を著していないので, あちらこちらに発表されたものから機能的にその英語教授観を組み立てるという作業が基本になろうかと思いますが, E. Anthony の 'approach, method, technique' あたりの枠組みを分析視点としてこの作業を進められてはいかがでしょうか。と同時に, 神田自身の中で時代により教授観に変貌が見られるということもあり得るかもしれません。Eclecticism は日本語で「折衷主義」と訳されますが, この訳ではどうしても否定的・頹廢的に響くところ, 英語のニュアンスはもっと積極的で, 採長補短的な意味合いがあり, ひょっとすると神田をして eclecticism に立たせることも可能なのではないのでしょうか。さらなる分析を期待しております。(Dragon)

◆「神田乃武日記」をはじめとする多くの資料の緻密な分析により, 新たな神田乃武像を描こうとするご研究に感銘を覚えました。特に「ナチュラル・メソッド」と神田との間の距離に言及された点が印象的で, 神田の標榜したのは「正則英語教授」であるとのまとめには説得力を感じました。「神田乃武日記」がより多くの研究者に利用されるよう, 公刊されると良いですね。惟任先生のこのたびのご発表は, 『日本英学者人名事典』神田乃武の項の「吹き寄せ」と相まって, 私の神田乃武像を大きく変えるきっかけとなりました。ありがとうございました。(White Horse)

◆まことに個人的な話ではありますが, かつての勤務校には晩年の神田乃武を「館長」という役に

迎えた歴史があるもので、神田にはある種の親近感を覚えてはいました。今日のご発表をうかがい、神田の英語教育観を明らかにする緻密なご研究に感服するとともに、神田を英語教育の歴史の中に「正しく」位置づけることの必要性をあらためて認識しました。いわゆる「通説」はアップデートされるべきものなのだと思います。ご研究のますますの進展を願っています。(riverson)

<発表 2 の感想>

◆NHK ラジオ講座の小川芳男による『基礎英語』1年分のテキストを取り上げ、これを Jack & Betty の教科書と比較しながら、その特徴を洗い出していただき、戦後早い時期の英語教育史の一ページを垣間見ることができました。ただ、この時期の NHK 語学講座としてはこの『基礎英語』と平川唯一の『英語会話』という構成だったかと思ひ、「基礎英語」が一つのレベルで構成されていたことを考えると、やはり J&B 3 学年分との比較のほうが妥当性が高いように考えます。もし、可能であれば、『基礎英語』のこれに先立つ年度分、これに続く年度分のテキストをお調べいただき、各年度間にレベルを進めるというような要素があったのかどうかなどが明らかになると、興味ある分析につながるのではないかと期待するところです。

(Dragon)

◆NHK の「基礎英語」で英語を学び始めた私にとって、その始まりとも言える小川芳男の「基礎英語」の内容分析を大変興味深くうかがいました。広範囲の聴取者に届けることを意図した「基礎英語」がどの程度のレベルであったのか、Jack & Betty との比較分析により多くの点が示され、当時の「基礎」の範囲についての認識を新たにしました。山田先生が指摘された「冬がよく登場する」というテキストの特徴は、特徴語として示された snow, Santa Claus などにも表れていますが、日本と異なる欧米の冬は、当時の英語学習者の興味を掻き立てるコンテンツだったのかも知れませんね。(White Horse)

◆『私はこうして英語を学んだ』だったか『話せるだけが英語じゃない』だったか、小川芳男の著書に、ラジオ放送に関わっていた頃の小川が地方での公演を頼まれた際、生放送は無理と判断し1回分をレコード盤に吹き込んで現地に向かったところ「朝のラジオに出ていた人が、今ここにいるはずがない」「偽物だ」と疑われたというエピソードが紹介されていたことを覚えています。ラジオの英語講座が国民的人気を集めていた時代を思うことです。ご発表から、英語における「基礎」とは何かということについて再考する機会をいただきました。(riverson)

発表を終えて

惟任 泰裕 (大阪成蹊大学)

今回の例会では、「神田乃武の英語教授観の再検討：『ナチュラル・メソッド』との関係を中心に」と題した発表を行いました。私はこれまで、「文検英語科」試験委員としての神田乃武について検討し、近いテーマで何度か発表をさせていただきました。検討が上手くいわずに悩むなかで、そもそも「ナチュラル・メソッド」という概念で神田を把握すること自体に問題があるのではないかと思うようになりました。そこで今回の発表では、一橋大学学園史資料室所蔵の日記をはじめとする新史料をもとに、神田と「ナチュラル・メソッド」との関係問いなおすことを試みました。その結果、これまでの研究の一つの結論として、「確かに神田は、わが国における『ナチュラル・メソッド』

ッド』の紹介者であったが、その一方で、神田自身は、系統性を強調した読本を中心的な教材に置いて、英語の四技能を統一的に教授しようとすることを目指した」という回答を導き出すことができたと思っております。最後になりましたが、示唆に富むコメントや情報提供をしてくださった先生方に改めて感謝申し上げます。

発表を終えて

山田 昌宏 (本学会会員)

ZOOM によるオンラインでの発表でしたが、発表前にパワーポイントのファイルと資料のファイルの共有等について操作に不慣れで、ご迷惑をおかけしたことをお詫びします。このテーマで取り組んだ中で一番時間がかかったのは、講座のテキストの文をテキストファイルに読み込む作業でした。スキャナーを用いましたが、講座のテキストが70年以上前のものということもあり、経年劣化等で読み込みエラーが起きて手作業で修正しなければならず、これに時間を費やしました。このテキストファイルをデータベースソフトに読み込んで、数量的な処理をしました。ここまでの作業に相当時間がかかり、出た結果を分析する段階で十分考察ができなかったと反省しています。小川先生が1年間の講座で英語の基礎をカバーしようとしたことはよく理解できました。従って発表時にご指摘のあったように、比較教材として「Jack and Betty 1」だけでなく、1～3年生用全3冊を対象にすべきだったと思います。今回の作業を通じて、敗戦から立ち上がり、新しい日本を作り上げる過程でかつての適性語だった英語の必要性を感じて、ラジオを聴いていた人たちとそれを支えようとする小川先生の熱意を感じることができました。

>> 事務局より

>> 2023 年度第 5 回定例理事会を開催

2024 年 3 月 16 日(土)11 時より Zoom を用いてオンラインによる理事会が開催され、以下の件が話し合われました。

1. 第 40 回全国大会 (広島大会) について

→ 大会担当理事の提案を受け、運営の詳細およびプログラムを確定しました (詳細は 4～5 ページ)。

2. 紀要『日本英語教育史研究』について

→ 編集委員長より、第 39 号は例年通り 5 月に刊行の運びである旨の報告を受けました。あわせて、投稿規程等の改正について 5 月の会員総会に報告することを確認しました。また、第 40 号は記念号とすることを決め、その内容を議論しました。

3. 著作賞について

→ 選考委員会から報告を受けました。詳細は 5 月の総会で発表されます。

4. 2023 年度会計について

→ 事務局より中間報告をしました。年度末処理ののち、会計監査を経て 5 月の会員総会で最終的な報告をします。

》) 名簿原票の返送について

会員台帳の情報を更新するため、4月中旬をめぐりに、すべての会員みなさまに「名簿原票」を郵送します。電子版会報の受け取りにご協力くださっているみなさまにもお送りしますので、必ず開封のうえご確認ください。お忙しい時期にお手を煩わせることとなり恐縮ですが、よろしくご協力ください。

なお、会費の未納分がある方には「会費納入のお願い」もしくは「会員継続のご案内」を同封させていただきます。会計処理の不手際により、事務局からのお願いが遅れたみなさまには、この場をお借りしてお詫び申し上げます。引き続きのご協力をお願い申し上げます。

》) 2024年度の紀要と会費について

全国大会にお越しの方には、受付にて紀要とともに「会費納入のお願い」をお渡しします。会場での現金の取り扱いを減らすため、当日は会費をお納めいただかないこととしています。お手数をおかけするうえ送金手数料のご負担をお願いすることとなり申し訳ありませんが、後日のご送金をお願いします。

全国大会にお越しにならない方には、終了後に事務局より「スマートレター」で発送します。その際、新年度分の「会費納入のお願い」を同封しますので、よろしくご協力ください。なお、前年度(2023年度)までの会費が未納の方には紀要はお送りせず「会費納入のお願い」のみを郵送します。

現在、会員名簿は発行していませんが、ご希望の方には会員台帳から出力したものをお送りしますので、「名簿原票」確認の際にお申し付けください。

紀要に論考が掲載された方には抜刷をお送りします。印刷会社に発送を依頼しており、事務局からお送りする紀要の本冊よりも早く届きますのでご承知おきください。(文責：事務局)

日本英語教育史学会第40回全国大会(広島大会) ぜひご参加ください

第40回全国大会(広島大会)は、ハイフレックス(一部は対面のみ)で開催いたします。皆さま、どうぞ奮ってご参加ください。対面のみ企画もありますので、ご都合のつく方は対面で、遠方で対面参加は困難だが...という方はオンラインでお会いできますことを楽しみにしております。

期 日 2024年5月18日(土)・19日(日) ※18日(土)は午後みの開催

会 場 【対面】 県立広島大学サテライトキャンパスひろしま

【オンライン】 Zoom

参加費 会員・学生：無料 一般(非会員)：1,000円

◆ プログラム

先の会報でお知らせしました通り、18日(土)には江利川春雄先生による記念講演「英語教育史研究の達成と未成」があります。また、19日(日)にはシンポジウム形式の記念プログラム「日

本英学者人名事典』刊行の経緯・意義・課題」(対面のみ) もあります。研究発表を含む詳細につきましては、学会ウェブサイト (<http://hiset.jp/>) をご覧ください。

◆ 参加方法

学会ウェブサイト (URL 上記) からの申し込みとなります。

◆ お問い合わせ先

下記のメールアドレスまで、お気軽にご連絡ください。

大会実行委員会 taikai@hiset.jp

>> この先の研究例会

- | | | |
|---------------|----------------------|---------|
| ◆ 第 298 回研究例会 | 2024 年 7 月 20 日 (土) | オンライン開催 |
| ◆ 第 299 回研究例会 | 2024 年 9 月 21 日 (土) | オンライン開催 |
| ◆ 第 300 回研究例会 | 2024 年 11 月 16 日 (土) | 検討中 |
| ◆ 第 301 回研究例会 | 2025 年 1 月 11 日 (土) | 検討中 |
| ◆ 第 302 回研究例会 | 2025 年 3 月 15 日 (土) | 検討中 |

→日程や場所は変更される場合があります。その際は会報およびウェブサイトでお知らせします。

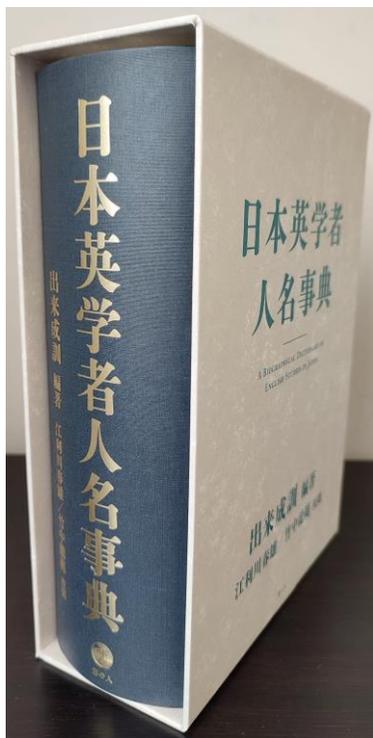
研究例会での発表希望者は、(1) 発表希望月、(2) タイトル、(3) 発表概要 (100~200 字程度)、(4) 使用予定機器、の 4 点を明記の上、発表希望月の 3 ヶ月前の 10 日 (11 月発表希望であれば 8 月 10 日) までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: reikai@hiset.jp

>> 新入会員

- ◆ 舟木 てるみ (ふなき てるみ) 東京都 高千穂大学
- ◆ 岩崎 舞子 (いわざき まいこ) 福岡県 西南学院大学
- ◆ 石山 ひかる (いしやま ひかる) 東京都 上智大学アメリカ・カナダ研究所
- ◆ 鈴木 誠 (すずき まこと) 埼玉県 埼玉県立和光国際高等学校

EDITOR'S BOX 4 月に入り、北東北や北海道を除いては桜も満開の時期を過ぎた頃かと思えます。秋田ではもう少しで桜が咲き始めそうな気配です。／寒い地方で暮らす人間にとって、雪かき (今年はほとんどしませんでした) や道路の凍結の心配、どんよりした曇り空が続く日々からの解放を意味する春は、本当にうれしさを感じる季節です。／私の地元の宮城は、秋田に比べ雪もそれほど多くなく、冬も晴れている日が多かったので、春になっても秋田ほどうれしさは感じませんでした。／話は変わりますが、オンライン開催の負の側面かもしれませんが、近頃例会の感想の数が減少傾向にあります。お忙しいところとは思いますが、ぜひ感想をお寄せ下さい。(若)



日本英学者人名事典

A Biographical Dictionary
of English Studies in Japan

出来 成訓 編著
江利川 春雄・竹中 龍範 校閲

ISBN : 9784896294293
出版 : 港の人 (2024 年 1 月)
価格 : 41,800 円 (税込)

日本英語教育史学会会員限定 特別割引価格

33,000 円 (税込, 送料含)

【出版元】



港の人

神奈川県鎌倉市由比ガ浜 3-11-49

<https://www.minatonohito.jp/>

【購入方法】

1. ウェブサイトの「本のご注文」にアクセスしてください。
2. お問い合わせフォームに必要事項を入力の上「お問い合わせ内容」の欄に書名・冊数と日本英語教育史学会の会員である旨を明記して送信してください。
3. 折返し、代金とゆうちょ銀行の振替口座がメールで連絡されます。
4. 発送は入金の確認後となります。振込手数料は各自でご負担ください。